

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171000282		
法人名	株式会社寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム八潮		
所在地	埼玉県八潮市緑町1-23-8		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 3 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 5 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 4 年 3 月 18 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設内の安全管理、地域の連携に努めている。近隣医療機関との連携を密に取り迅速な受け入れ、適切な指示を受けられるよう働きかけている。また近隣の老健より理学・作業療法士等を入れ、利用者様のリハビリや職員のケア向上に協力を得ている。日常的に玄関錠せず、日光浴・と自由に出入りできるよう、見守りに徹している。職員各自、日常のケアについて振り返りする機会を設け、虐待を見逃さないようまたケアの向上に繋げている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所内に委員会制度を設けている。1.広報委員 2.身体拘束・接遇委員 3.労災・事故防止委員 4.衛生・環境委員があり、職員夫々の役割を以て全体運営がなされている。身体拘束・接遇委員は、勉強会での資料作りを担当し、事例研修では自分に置き換えて、どう思うかを話し合い、また困ったことがあれば常に「どうする」を、相談し合い納得できる支援へ導いている。主治医で往診医でもある広瀬医院は、入院設備もあり連携もよくきめ細やかな対応がある。コロナ禍でのワクチン接種では、早めの対応であったことや来所のうえ接種がなされたことは、利用者だけでなく職員にとっても安心で嬉しいことであった。管理者が看護師資格を有することも合わせ、医療面での安心の体制がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示すると共に、申し送り時に全員で唱和をし、新職員には入職時に説明をしている。	申し送り時の唱和の他、随時の話し合いで確認している。理念にある「職員にとって都合の良い介護はしない」は、業務見直しの時に、反してないかを話し合い、排便時等でも利用者本位を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により地域の人々の交流を控えている。	自治会には、法人賛助会員として加入しており、自治会のお祭りなどには招待が来るし、年度の総会には参加し資料は頂いている。民生委員が玄関に古新聞を置いてくれ助かっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域の人々の交流を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議を中止している。地域包括・民生委員・市役所(高齢者政策係)へ議事録を作成し、施設内状況を報告している。	市と相談し書面開催としている。議事録を作成しており、内容は運営の概況報告の他、コロナ禍での面会中止のことや、2名の濃厚接触者が出たことでの対応、クラスター等の発生がないことを報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況の報告・相談をし、助言を頂き質の向上に活かすよう、施設運営に努めている。	介護保険更新申請や運営推進会議の議事録を窓口へ出向いて報告しており、その際の情報交換はある。保健所とも連携を良くしており、ワクチン接種では主治医の良き対応で早めの接種が出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を通し、3つのロック(スピーチ・フィジカル・ドラック)の再確認・玄関等扉の施錠はせず安全確保・日常ケアの振り返りに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3カ月ごとに全員参加で実施している。担当係を作り、資料整理や勉強会と振り返りを行っている。事例研修を取り入れ、自分だったらどうするかを質問し、皆で考え話し合っている。困った時には相談し、納得することを基本とする。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックシートにより各自行っている日常ケアの振り返りをする機会を設け、反省や気づいた点を共有し虐待を見過ごさないように、またケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	接遇委員会を通し権利擁護の基本について確認をしている。現在、後見人がいる利用者様が2名いる。その後見人たちに相談をし、支援して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に明示されており、契約時にご家族様、利用者様に説明をし同意を得ている。 (継続)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会謝絶。特定期間、面会謝絶を解禁したが、面会をご希望されるご家族様はとてま少なくなかったが、要望や意見を頂き運営に反映させるよう努めている。	家族の面会は中止、または条件付きとしているが、来所時には困りごとや心配事が無いかを話し合うほか、電話やメールでの意見交換もある。圧迫骨折で退院の人で、家族要請から床にクッションマットを敷いた人がいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言い易い職場作りを心がけ、業務カンファ等でよい提案・意見を反映させている。	全体会議を極力避けており、業務の時間内に打ち合わせることが多い。早番帯のトイレ掃除を担当替える等の業務改善案もあり導入している。本部からの指示についても、具体的な実行方法を相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社負担での講習や各種資格手当を設けるとともに、休日日数(年間120日)やシフトの融通性をもって、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修でも、必要であれば場合によって会社負担で講習に参加出来たり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に添うように機会を設けている。(コロナ禍の為中止を捨てている。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の地域同業者との会議または地域介護サービス連絡会がコロナ禍により中止になっている。(資料のみメールで届いている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何でも話して頂けるよう寄り添い傾聴。困ったことや悩んでいること・不安なことなど話して頂けるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や相談を伺い適宜な助言、提案をさせて頂き、信頼して頂けるようまた話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態やご家族様の心境などに配慮し、前もって施設要望書を用い思いを記入して頂き、サービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様毎に出来ることを見つけ、掃除や料理の手伝い、レクリエーション等を一緒に楽しむよう心掛け、家族の一員として生活を共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況をご家族様に伝え、共に考えたケアを実施。ご家族様がいつでもそばに居ることを利用者様に伝え、双方の関係構築に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様からのご要望に沿えるよう、ご家族様のご協力を得ながら支援に努めている。(特定面会謝絶解除期間に友人面会あり。)	友人の面会希望で、家族と連絡し合い、コロナ拡散が下火の頃、来訪があり喜ばれた。病院受診の途中で、車窓から以前住まいの近くを通ると、想い出話を楽しそうに話される人がいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立のないようまた揉め事にならないよう間に入り、良い関係が築けるよう心掛け支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、いつでもご相談に乗りますので、お声掛けくださいと伝えている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と話をし困っていることや希望等を伺い把握に努めている。会話の難しい利用者様については、仕草や表情から察し、その時に最適と思われる支援を実施している。	入居前の実態調査では、生活への希望を聞いている。日々の支援の中で寄り添いながら話を聞いているほか、入浴中の会話では普段以外の話題となることもあり、伝言や申し送りでも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサマリーや既往歴、またはご家族様等からの情報を活かし、さらに利用者様の話の中から今までの生活を把握し、生活援助の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様毎の心身状態の変化に気を配り、日々の申し送りやケアカンファ等で、できること・できないことの把握に努め、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要に応じ、ケアカンファを行い、ケアマネを中心とし、ご家族様からの意向や要望等を聞き入れ介護計画を作成している。	更新見直しは1年を基本としており、更新の1カ月前から計画作成担当者のモニタリングが始まっている。見直しは皆で話し合っており、主治医や理学療法士等の意見を入れ、家族への説明としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録に記入。申し送りノートを活用し、常に職員間で情報を共有しながら日常のケアの見直しをし、介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様対応の受診・院外処方薬の受け取り・買い物等、代わりに行わせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域行事参加等中止をしている。近隣の老健より理学・作業療法士等を入れ身体・心身機能の維持に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診・週1回の訪問歯科の医療支援を実施。地域馴染み深い病院のため利用者様、ご家族様及び当施設は安心をした医療を受けている。	主治医は月2回の訪問診療で、入院設備のある病院から来訪されるので安心である。夜間の緊急時には、主治医に連絡し指示を仰いでいる。訪問歯科は月2回、訪問看護師は週1回の来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師を入れ日常のケアの相談や助言を頂き、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍により面会することができなかったが、早期退院、退院時の受け入れ、退院後の指導等ケースワーカーと情報交換や相談また退院後主治医との連携にも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ当施設で出来る事、出来ない事を明確にした上で方針をまとめ、ご家族様への説明や利用者様の希望を伺い実施する。現状は個々の状態に添った支援を、ご家族様や医師と相談しながら決定している。	入居時に方針の説明をおこなっており、重度化が進むと家族と主治医、管理者とで話し合っている。医療行為のどこまでを望まれるか等々、具体的な相談となるが、変化に応じた都度の説明をしている。看取りの経験はあり、必要時の研修もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し応急手当・防災救命時の訓練に参加し普段から実践できるように取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの見直し、災害時の備蓄品の入替えをしている。	年2回の訓練を行い、一度は夜間想定でおこなっている。コロナ禍でもあり消防署の立ち合いはない。水害対策として垂直避難をおこなっているが、災害マニュアルの見直しや備蓄品の入れ替え等を課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様毎の今までの生活環境や生いたちを理解し、敬意を持った声掛け・傾聴をし日々の生活を支援している。また職員間での情報共有の際、利用者様に聞こえないよう気を付けている。	二ヶ月毎のふれあい通信で、顔写真を載せることを了解して貰っている。委員会制度の接遇委員会では、尊厳やプライバシー確保の研修会をおこなっている。居室内でのオムツ交換時はドアを閉めることとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の強制による自己決定にならないよう声掛けに気を付け表情・仕草からも思いをくみ取り、自己決定できるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様毎、その日の希望に添いながら、ゆったりと自由に時間を過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様のご協力を頂き、着慣れたお気に入りの服、また新しい下着等を持参して頂いている。理容を入れ、散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後のテーブル拭きをを行って頂いている。利用者様同士が楽しく召し上がっていただけるようテーブル席を配慮し決めさせて頂いている。	食べたいものを話された時は、職員も覚えており、その機会を作っている。年間4～5回の行事食やおやつ作りでは一緒に白玉団子をこねてもらった。玄関先で取り寄せの天井やファストフード等を頂く工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取制限有の利用者様への配慮。利用者様毎に合わせた食事形態、タイハイを利用し塩分控え栄養バランスの考えられた食事の提供をさせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様毎に能力に応じ、ご自身で口腔ケアを実施。その後職員が確認し不足している分を介助し清潔保持に努めている。訪問歯科医と連携・相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンをつかみ、声掛けトイレ誘導を行い排泄支援をしている。	夜間のオムツ使用者は2名であり、他の人は声掛け誘導か排泄自立者で、オムツゼロに向けている。カンファレンスで個々に適した下着について話し合っており、家族とも相談し布の下着を使ってみての試行錯誤がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し、下剤にて排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設内での入浴時間に制限はあるが、希望により制限時間内であるならいつでも入浴のできる体制を整えている。	三日に一度の入浴だが、汚染や不穩、外へ行きたがる人へは入浴のお誘いをして気持ちを別へ向けている。入浴が面倒だと言う人へは、「八潮の湯だよ」と声掛けし、湯船では気持ち良いとの返事がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の室温調整。生活リズム作りに心掛け、状況を見ながら眠気の強いときは無理せず休息の声掛けをし休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、処方内容、処方変更及び往診受診内容を、各個人別に受診記録を記入し職員全員が把握できるようにし、処方変更投薬後の体調変化に十分注意をし、記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様毎にできることを把握し、その時の体調や気分に合わせて、無理のないよう能力や嗜好にあったレクリエーション・役割の提供を考え参加をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には、玄関前にて外気・日光浴をしている。コロナ禍により外出は中止をしている。	天気の良い日は、近場の散歩や広場へ行っているが、コロナ禍で自粛が多い。玄関先での外気浴を楽しんで貰っている。屋は玄関を開放しており、黙って外へ行く人もあるので見守りに注意し合っている。コロナ禍の収束が待たれる。	外出機会が少なく、脚の筋力が落ちていることが懸念されている。季節も良くなるので、コロナ禍が落ち着けば散歩や車椅子ドライブなど、積極的に戸外へ向けての活動支援に期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は大切なものであることの理解はある。管理ができず、紛失・物取られ妄想等の揉め事になりかねないため、所持はさえていない。コロナ禍の為、買い物に出掛けることも控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族様の協力があれば、いつでも電話をかけたり、とりつないでいる。手紙も希望が支援をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・風物詩のわかるもの、利用者様の作品等を廊下やリビングに掲示を目でも季節感を感じていただけるよう工夫をしている。	二階フロアの和室には、三段重ねのお雛様が飾られており、五月人形への切り替え時期を相談している。利用者との共同作品として、桜の花を貼り絵で飾り季節感を感じている。食後の休憩時間を利用して換気を行い、感染予防に向けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し、気の合ったもの同士楽しく過ごして頂けるようテーブル席を決めさせて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、着慣れたものを居室に設置し、ご自身の居心地を優先した環境作りに心掛けている。	エアコンと洗面台、押入れが備わっており、ベッドは使い慣れたものかレンタル使用である。三面鏡を前にして髪をとかし一日が始まる人や、人形に名前をつけて可愛がる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札、トイレなどわかりやすいよう掲示し、危険と思われるものを排除し、安全に自立した生活が得られるよう環境づくりに心がけている。		